

学校便り

プラハ日本人学校

TEL : 233 340 000

FAX : 224 313 684

Email : gakkou@jpschool.cz

No.909 2018/3/15

JAPONSKÁ ŠKOLA V PRAZE

VLTAVA

学校教育目標

「自ら学び共に学ぶ、豊かな心と国際性あふれる たくましい児童・生徒の育成」

目指す子ども像

かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子

第 37 回卒業証書授与式 卒業式式辞

(プラハ日本人学校校長)

プラハにも春の訪れが感じられる本日、在チェコ日本国大使館全権特命大使嶋崎郁様をはじめといたしましてご来賓のご臨席を賜り、第三十七回卒業証書授与式を挙げていただけますことに心よりお礼申し上げます。

そして、卒業生のご家族の皆様へ、心からのお祝いとお慶びを申し上げます。また、本校の教育活動へのご理解、ご協力をいただきましたことに対しましても、心より感謝申し上げます。立派に成長した卒業生を、皆様とともに送り出せますことに私ども教職員一同皆大きな喜びを感じております。

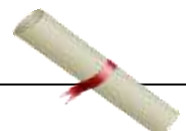
七名の小学部卒業生と二人の中学部卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、手にしている卒業証書は、小学校、中学校での成長を証明するものであると同時に、家族の方々、皆さんに関わってきたすべての方々の願いや思いがこめられたものでもあります。自分自身の晴れ晴れとした誇らしい気持ちに加えて、これまで様々な場所で自分を守り育ててくれた方々、自分を支えていただいた方々を思いおこし、感謝の気持ちをしっかりと伝えてほしいと思います。

さて、私は、いつも「三つの出会い」という話をしてきました。仲間や先生との出会い、チェコという国との出会い、そして最後が自分との出会いです。ここでは、友達や先生との多くの出会いとそして別れがあります。別れが多いだけ、一つ一つの出会いはとても重みのあるものになったのではないのでしょうか。チェコとの出会いでは、皆さんは日本とチェコという二つの国の文化や伝統を知るだけでなく、チェコ語と日本語、そして交流の時には英語も駆使してコミュニケーションをとろうと努力しました。こうした出会いは、その時その場所でのたった一回きりの出会いです。運動会や学習発表会の時にかわした仲間の言葉はその時、その場所だからこそ大きな意味があります。修学旅行で食べたドイツの料理は、その時、その場所でしか味わえないものです。チェコに一つしかない日本語の学校ですから、素晴らしい人たちとの出会いもありました。そんな出会いを大切にすればするほど、そこから何かを得、感じ方や考え方が変わって行くことに気づきます。成長する新しい自分との出会いがあります。そして、学校という場所は、ただ先生から学ぶだけではなく、自分から人に教えたり、クラスメートや先輩からも学んだりする場所、つまり学びあいの場でもあります。人から「教えてくれてありがとう」「君のおかげだよ」と言われる以上の喜びはありません。仲間との出会いは、単なる楽しさだけでなく、その根底には常に、友達や周りの人のため、さらには社会のためにあると言うことを忘れないでください

でも、出会いだけがすべてではありません

＝ご卒業おめでとうございます＝

小学部 6年 石原さん 梶田くん 加藤さん
図子田さん 西中くん 水田 くん
安井さん
中学部 3年 西中さん 向井くん



ん。人は自分らしく、自分に正直に生きることが大切です。ひたむきに、課題に真正面から向き合い、自分の可能性を信じ、ひたすら努力し、全力をつくしてください。そのことで、他人との比較や他人からの評価をあてにするのではなく、自らの考え、感性を信じ、自分らしく生きることができるのです。自分らしく、自分に正直に生きることで、これまでの三つの出会いは、大きな三つの出会いとなります。先生やお友達との出会いはもっとたくさんの自分とはまるで違う人との出会いに、チェコとの出会いはもっと広い世界との出会いへ、そしてよりたくましく、ほんとうの自分らしくなっていく自分との出会いがあるはずです。人との出会い、世界との出会い、そして自分との出会いを大切にしてください。

最後に、卒業生の皆さんの新たな旅立ちに、限らない発展とご健康、そして幸多かれと祈念し、式辞といたします。

=転出のお知らせです=

小学部 1年	川原くん	中学部 1年	鳥居くん
2年	圭くん		濱さん
3年	助川くん		
4年	川原くん		
	鳥居さん		



=3年間お世話になりました。私たちは日本に帰任します=

○儀式の最後にいつも元気よく歌ってくれたプラハ日本人学校の校歌が大好きです。「からだをきたえ 心をみがき 真理の道をたずねゆく 友のひとみは清く澄み 肩をくみ たくましく 世界の友とはげみあう」これから5年先、10年先の成長した姿をどこかで見せてくださいね。 齊藤仁

○毎日、子どもたちからたくさんの色々なお話を聞けるだけでなく、下校の時は、保護者の方々からご丁寧にご挨拶いただき、たくさんの元気を頂くことができた3年間でした。日本でもチェコでも、そういったちょっとした時間の会話が、私は大好きです。そこから、何かステキな発見があるかもしれません。ステキな時間、本当にありがとうございました。 一瀬 多希子

○この3年間で出会えた全ての人に感謝します。とても素直で可愛い子供達、支えてくださった保護者の方々、一緒に支え合った職員、友人…。そして、チェコ、プラハに感謝します。歴史、自然、芸術、食べ物、気候…。私にとって全てが新鮮で、刺激的でした。この3年間で得た宝物をこれからの人生でも大切にしていきます。 染谷 恭平

○この3年間で、新たにできるようになったことがいくつかあります。この歳になっても、そんなことがあるのだと、気づきました。これからも学び続け、挑戦し続けようと思います。プラハの美しい自然、景色とともにみなさんのことを懐かしく思い出す日が、今から楽しみです。みなさん、どうぞお元気で。 西川 澄子

○多くの出会いや別れを越えて、いよいよ自分が去るときが来てしまいました。低学年のかわいい元気な子どもたちと、いつもプラハの四季を感じながら過ごした3年間でした。子どもたち1人1人の笑顔と美しいプラハの四季が心に残っています。保護者の皆様には、いつもあたたかいご理解とご協力をいただきありがとうございました。 柳川 篤